



6:1 イスラエル人がエジプトの地を出てから四百八十年目、ソロモンがイスラエルの王となつてから四年目のジブの月、すなわち第二の月に、ソロモンは【主】の家の建築に取りかかった。

6:2 ソロモン王が【主】のために建てた神殿は、長さ六十キュビト、幅二十キュビト、高さ三十キュビトであった。

6:3 神殿の本殿の前に付く玄関は、長さが神殿の幅と同じ二十キュビト、幅が神殿の前で十キュビトであった。

6:4 神殿には格子を取り付けた窓を作った。

6:5 さらに、神殿の壁に、すなわち神殿の壁の周り、本殿と内殿の周りに、脇屋を建て巡らした。こうして階段式の脇屋を周りに作った。

6:6 脇屋の一階は幅五キュビト、二階は幅六キュビト、三階は幅七キュビトであった。それは、神殿の外周りの壁に段を作り、神殿の壁を梁で支えずにすむようにするためであった。

6:7 神殿が建てられたとき、石切り場で完全に仕上げられた石で建てられたので、工事中、槌や斧や、いかなる鉄の道具の音も、いっさい神殿の中では聞こえなかった。

6:8 二階の脇屋に通じる入り口は神殿の右側にあり、螺旋階段で二階に、また二階から三階に上るようになっていた。

6:9 ソロモンは神殿を建て、これを完成させるにあたって、神殿の屋根を杉材でできた雨水溝の列でおおった。

6:10 神殿の側面に脇屋を建て巡らし、その各階の高さは五キュビトにして、これを杉材で

神殿に固定させた。

6:11 そのとき、ソロモンに次のような

【主】のことがあった。

6:12 「あなたが建てているこの神殿のことであるが、もし、あなたがわたしの掟に歩み、わたしの定めを行い、わたしのすべての命令を守り、これによって歩むなら、わたしはあなたについてあなたを捨てない。父ダビデに約束したことを成就しよう。

6:13 わたしはイスラエルの子らのただ中に住み、わたしの民イスラエルを捨てることはしない。」

どんなに立派な神殿を建てても、神様が認めてくださるなら、何の意味もありません。ですから神様はわざの途中で、警告と約束を与えられました。

私たちの日常の働きも同じです。主のご計画がありまから、それが完成するまでチエックしましよ。その働きの途中でも、何度も何度も主のために役立っているか、みこころに叶っているかどうかを確認しましよ。でも、いつの間にか、私たちが主の働きも多いため、特に重要な働きが、私たちの努力に主が臨在してくださるようになりましよう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたなどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

